

結核研究所 所内研修 シラバス(医師・臨床コース)

1	コース名	医師・臨床コース			
2	コース責任者	対策支援部 企画・医学科			
3	期間	2024年11月28日～30日			
4	対象	結核の診断・治療に携わる医師			
5	概要	結核の臨床に役立つ診断や治療、臨床に役立つ知識など			
6	目的・目標	<p>目的: 結核の臨床に必要な知識や技術を習得する</p> <p>到達目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 結核の診断(菌検査、胸部X線写真等)や治療(LTBI含む)を理解する。 2. 保健所との連携や療養支援を理解する。 3. 結核の基礎や疫学、HIV合併症を理解する。 4. 非結核性抗酸菌症を理解する。 5. 結核研究の最前線を理解する。 6. 外国出生患者に関わる情報を理解する。 			
7	講義計画	講義科目	時間(分) <small>※変更する場合有り</small>	講師 <small>※変更する場合有り</small>	講義内容
	臨床関連	保健所との連携と結核対策	90	所長	結核の統計や関係する法律等
		肺結核の画像診断	120	複十字病院	菌の性質や菌に対する免疫反応、解剖や病理を踏まえた上の肺結核の画像など
		結核菌の細菌学/菌検査	90	抗酸菌部	結核菌の細菌学/個々の検査方法の解説や検査の注意点など
		結核感染・発病・IGRA	90	抗酸菌部	感染を規定する因子やBCGの効果、発病のリスク因子、IGRA検査のそれぞれの検査方法と注意点
		NTM症	80	複十字病院	NTMの基本情報や発症要因、治療、経過、最新の知見など
		結核とHIV	120	国立病院機構東京病院	結核とHIV感染症の最近の動向や臨床像、治療、LTBI、抗HIV療法の開始時期の検討
臨床に役立つ知識	臨床演習	180	企画・医学科・複十字病院	ディスカッション形式で実際の症例からより良い診断と治療方法を検討	
	結核の療養支援	90	保健看護学科	療養支援に関する技術や実際	
	途上国における結核対策と欧米における結核研究の進歩	90	副所長	途上国の対策の日本との違いと、新しい検査法や発病予測マーカー、結核菌ゲノム、ワクチン、新薬などの結核研究の最新情報	
	結核の疫学	90	対策支援部	疫学の基礎と様々な危険因子などの結核の疫学	
	合計(分)休憩等含まず		1040		
8	参考資料	<p>結核診療ガイドライン(改訂第3版) (日本結核・非結核性抗酸菌症学会の学会員専用ページの結核診療ガイドラインから、PDFファイルが無料でダウンロード可)</p> <p><u>小児結核診療のてびき(改訂版)</u> https://jata.or.jp/dl/pdf/data/syouni_tebiki_202103.pdf</p> <p>日本結核病学会治療委員会:「結核医療の基準」の改訂—2018年. 結核. 2018; 93: 61-68. https://www.kekkaku.gr.jp/pub/vol93%282018%29/vol93no1p61-68.pdf</p> <p>結核医療の基準(厚生労働省, 令和3年10月18日改正) https://jata.or.jp/dl/pdf/law/2021/TB_medi_kaisei_R03.10.18.pdf</p> <p>日本結核・非結核性抗酸菌症学会治療委員会: 本邦での多剤耐性結核治療に対する考え方. 結核. 2020; 95: 79-84. https://www.kekkaku.gr.jp/pub/pdf/MultidrugResistantTuberculosisTreatment.pdf</p> <p>日本結核病学会予防委員会・治療委員会: 潜在性結核感染症治療指針. 結核. 2013; 88: 497-512. https://www.kekkaku.gr.jp/pub/Vol.88(2013)/Vol88_No5/Vol88No5P497-512.pdf</p> <p>日本結核・非結核性抗酸菌症学会予防委員会・治療委員会: 潜在性結核感染症治療レジメンの見直し. 結核. 2019; 94: 515-518 https://www.kekkaku.gr.jp/pub/vol94(2019)/vol94no10p515-518.pdf</p> <p>日本結核・非結核性抗酸菌症学会治療委員会: イソニコチン酸ヒドラジドが使用できない場合の結核治療について. 結核. 2022; 97: 125-127 https://www.kekkaku.gr.jp/wp-content/uploads/2022/03/no2_march-april_P125-130.pdf</p>			
9	備考	原則、全コースの参加をもって修了証を発行する。			